

# 災害救援本部通信

## No.5

発行日：2011年7月19日  
発行所：真宗大谷派宗務所(組織部)  
発行人：災害救援本部長 黒川紘紀

東北地方太平洋沖地震により  
被災された方々に対し  
衷心よりお見舞い申し上げます

災害救援本部からのお知らせは宗派ホームページ  
<http://www.higashihonganji.or.jp/>  
に掲載しています

# 全国から届け 災害救援金を を給付(第一次)

## 四教区・六県六十三市町村・ あしなが育英会に

被災地の  
一日も早い  
復興を願って

真宗大谷派では、東北地方太平洋沖地震災害発生直後から、真宗本願各所に災害救援金箱を設置し、救援金受付を設けるなどして、「被災者支援のつどい」や「東北地方太平洋沖地震災害被災者支援宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌第二期・第三期法要」等に上山された方々に対し、救援金をお願いを行ってきた。

同時に、災害救援金口座を開設し、宗派刊行物やホームページにおいて広く全国の寺院・門徒に対して救援金を呼びかけ、また、各教区においても積極的な救援金の勧募を行っている。

このたび、災害救援金の第一次給付が決定し、五月十八日までにお寄せいただいた救援金のうち、三億七千万円を被災された四教区・六県六十三市町村・あしなが育英会にお届けした。

### 杉浦義孝財務長が被災した市町村へ赴き、災害救援金を手交

竹田恵示参務が仙台教務所(現地災害救援本部)において仙台教区教区会議長に対し、災害救援金(一億五千万円)を手交したことは既報のとおりである。加えて、去る六月十三日から十六日にかけて、杉浦義孝財務長が仙台教区・東京教区内の若手県・宮城県・福島県・茨城県・千葉県を訪れ、陸前高田市や仙台市、いわき市等被害が甚大な十一の市町村に赴いて、近隣寺院住職・門徒の方の案内により、災害救援金を手交した。

特に、人口約二万三千人のうち、二千人を超える死者・行方不明者が報告されている陸前高田市においては、戸羽太市長と面談。自身も妻を亡くされたという市長は、「津波も含めた防災対策に長年取り組んできたが、このたびの震災は想定できない事態であり、避

難所に指定していた場所さえも津波で流された。避難誘導していた市役所の職員も半数以上が亡くなった」と涙ながらに語られた。「ただ、いつまでも悲しんでおられない。復興に向けて前を向いて歩いていきたい」と最後は力強い言葉もいただいた。

### 黒川紘紀災害救援本部長があしなが育英会に災害救援金を手交

東北地方太平洋沖地震災害により、両親または父母のどちらかを失った児童が多数報告されている。去る七月六日、あしなが育英会神戸レインボーハウスに赴き、黒川紘紀災害救援本部長は、「あしなが育英会が震災・津波遺児募金」として一千万円を伊藤道男神戸事務所長(東日本大震災・津波緊急対応本部担当)に手交した。当日、同氏に今回の震災に対する「あしなが育英会」の取り組みを尋ねたところ、四十年以上の遺児支援活動の中で、初めて「特別一時金」という給付制度を設けたと聞く。この制度は、震災・津波で両親のいずれか、または一方の親を亡くした遺児に対して、未就学児・小・中学生までは五十万円、高校生は七十万円、大学・短大・専門学校・大学院生は百万円が支給されるものであり、奨学金と違い支給後に返納する必



金石市にて

## 大谷暢顯門首所感～被災地に出向いて～

大谷暢顯門首は、6月7から10日にかけて被災された仙台教区、東京教区の寺院を見舞われた際の所感を述べられました。

宗祖親鸞聖人750回御遠忌法要を厳修いたし、その後、6月7日から10日までの間、東北地方太平洋沖地震の被災地へお見舞いに出向きました。

現地入りのため降り立った仙台空港では、震災当初の壊滅的な状態が大きく整備されており少し安堵いたしました。その後、空港からは被災地を目の当たりにしながら車で仙台教務所に到着しました。そして現地復興支援センターにて被害状況の説明を受けた後、数カ寺の被災寺院に出向きました。

特に被害が甚大であった陸前高田市の気仙組本稱寺様は、海岸から1キロ以上離れ、山の近くであるにも拘らず、津波が一気に押し寄せ、津波が引いた後は、何もかも跡形も無く流されたとお聞きしました。お寺のお堂跡の両側にボツンと立っている大木が深く心に残っています。

今回の大震災では、15,462人の方が亡くなられ、7,650人の方が行方不明になっておられ、未だに多くの方が避難生活を送っておられます。(6月19日現在)被害の甚大さにとても胸が痛み、何と申し上げたらいいのか、ただただ被災された方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。

被災地に出向き、第1期御遠忌法要を「被災者支援のつどい」としてお勤めし、第2期・第3期を、そのつどいの願いを継承し厳修させていただきましたことを深く受け止めなおしました。この度の御遠忌法要は、50年に一度の宗祖親鸞聖人のご恩徳を仰ぐご縁でありましたが、被災者の筆舌に尽くしがたい苦悩に思いをいたしつつ、全国各地から参詣された御同朋の皆様と共に心一つにお勤めさせていただきました。このことは、宗祖の願いに合った意義深い御仏事であったと改めていただいております。

## 2011年度一般会計補正予算が成立 被災地へのさらなる復興支援施策を盛り込み

このほど、第54回宗議会・第53回参議会が開催され、昨年の常会において成立していた2011年度予算に補正を加えた一般会計補正予算が成立した。補正予算の主な内容は、仙台教区及び東京教区の経常費御依頼額を1億円減額し、さらには災害対策やボランティア活動をはじめとする災害見舞費を5,305万円増額する等。既に成立した緊急支出や全国からの災害救援金とあわせ、総額8億5,000万円規模の復興支援策を継続的に取り組んでいくことが確認された。

「現地復興支援センター」ホームページ  
<http://fsc.higashihonganji.or.jp>

ホームページ内のブログでは、現地復興支援センターや各教区のボランティアの活動日記に加え、「ボランティアの募集」「救援物資のお願い」等についても随時掲載し、被災者の方々に対する支援活動をお知らせしています。被災地におけるボランティア活動の今を伝えるホームページをぜひご覧ください。  
■被災地では仮設住宅への入居が進み、新たな救援物資の要請が届いています。詳細はブログをご覧ください。



当派の寺院、門徒、関係学校在学生又は卒業生であつて、東北地方太平洋沖地震へのボランティア活動を希望される方で、現地復興支援センターのサポートを希望される方は、下記までお問い合わせください。

東北地方太平洋沖地震「現地復興支援センター」  
〒983-0803 宮城県仙台市宮城野区小田原1丁目2番16号[仙台教務所内]  
TEL:090-7345-5049 FAX:022-297-2827 E-mail otaniha-f.s.center@watch.ocn.ne.jp

# 被災地レポート



大谷大学教職員・学生有志24名が、6月3日から6日にかけて大学バスで現地入り、「現地復興支援センター」を拠点として石巻市の泥出し清掃ボランティアを実施いたしました。ボランティア活動への学生の関心は非常に高く、希望者が殺到したため、当初2回に分けて行われる予定だったこの「ボランティアバス」の臨時便を増発したほど。

新聞には「弾丸ツアー」と紹介されたこのボランティア。参加した、教職員の方のレポートと学生からの感想文が届いておりますので、抜粋してご紹介します。

## 教職員のレポート

大谷大学教職員学生総勢24人、金曜日の夜19:40に大学を出発し、一路仙台の支援センターへ。12時間の移動でした。この活動は、「大谷大学教職員有志スタッフ」が発起人となり、大谷大学の全面協力のもとに行われたものです。大学からは、学校バスの提供やさまざまな物資を提供いただきました。費用は、有志スタッフでカンパを集め、あとは実際の参加者が各自10,000円を負担するという形で、なんとか実現いたしました。

何より大きかったのが「現地復興支援センター」の後ろ盾です。宿泊はもちろん、昼食弁当の提供や、石巻ボラセンとの繋ぎなどを行っていただきました。特に大きかったのは、「東本願寺」という名前です。京都からは東日本の実情が見えにくいということもあり、学生の保証人の方々が心配されるケースもありました。しかし現地復興支援センターが拠点となると知ると、安心していただくことができました。感謝です。

学生の反応はさまざまにありましたが、全員、大きな、大きな課題をもらって帰ってきたようです。「京都からよく来てくれた」という声に接したり、逆に「たった2日間で何ができた」という厳しい声もいただいたようです。「よく来てくれた」という言葉には「とんでもありません」と。「何ができた」という声には「申し訳ありません」と応えることしかできません。みんな本当に、「何もできない」という思いを強く持って、帰ってきました。しかし、細い線でも切らさないこと、みんなみんなで線を繋ぎ続けることが何よりも大切なことであるとも感じました。

「授業も仕事も休まない!」が私たちのモットーです。今やるべきことは、今自分がやっていること。学生は「勉強」。未来のための「勉強」。それをサポートするのが大学人の本業です。だから「授業も仕事も休まない!」。だけど年寄りにバスはつらい…。寝られないもんですね。また報告いたします。

〈大谷大学教職員:男〉



## 学生の感想

・・・保育園の中に入ると15時46分に止まった時計を見つけてきました。周りには子供たちのお帳面や靴がグチャグチャでどろどろになって、「先生や子供たちはどうなったのかな、助かったのかな」。本当に悲しくてたまりません。わたしは教員になるという目標があります。津波に襲われ、きっと先生たちは必死で子供たちを守ってたんやろなあって感じました。

私は3月11日の次の日が誕生日で、10代最後がこんなんになってしまってテレビとかもゼーんぶこの話で、正直「最悪な誕生日やわあ」と、このボランティアに行くまで思っていました。だから、ほんとに現場にいきテレビでは伝わらないことを学び東日本大震災と向き合えてよかったです。

現場はテレビでは感じる事ができないくらい臭いがしました。ちっちゃい虫もたくさんわいて、ここは日本ではないって思うくらい場所でした。今私が当たり前で暮らしているところはなんの臭いもない食べ物も住むともあるのに、3ヵ月たった今でも、石巻市やほかの被害にあった地域はそのままです。テレビも原発のことばかりになり、薄れて来てて。

現地の人に言われたのは、「関西では石巻市のことたくさん流れてるか」とか、「テレビよりすごいやろ、テレビは何も伝えてくれてないねん」って。わたしはこれからしっかりと伝えたいといけないうちやおもいました。そして人間の愚かさや自然の恐ろしさを味わいました。生きていることは当たり前ではないとわかり、これからの生き方やもの考えかた、感謝の気持ちを忘れないようにしていこうと思ってます。

〈3回生:女〉

では真宗大谷派で集めるべき救援物資は何がいいのだろう。やはり、送る側・送られる側の顔が想像できるものがいい。本山に持ってきてもらうのだから、集めることも配ることも、ある程度時間がかかるだろう。だから、腐るものや劣

今回の災害が起こった時、被災された方への救援物資として、宗派が提供を呼びかけるには何か一番ふさわしいのどうと考えました。大谷派の災害救援物資は、全国の寺院、ご門徒として本山が、被害に遭われたお寺やご門徒、その地域に住んでいる方々と、実はみんな繋がっていて、御同行御同行として寄り添い、「あなたは一人ではない。あなたを見捨てない」と実感していただくことが願いなのだと思います。

幸運なことに、集まったお米を小分けして保管してくれる専門業者が見つかりました。全国から集まったお米を一つにした混ぜ米には違いありません。味は市販のお米より劣るかもしれませんが、全国のご門徒の気持ちが込められています。その気持ちが込められたお米は、ご飯として食べられるのももちろん、お内仏の「お仏飯」にもなるのです。

被災者の一人一人が、大好きな故郷、大好きな街、大好きな家、大好きな家族が、もう一度復興することを願っています。

平野真(ひらのまこと) ボランティア委員会委員、高山教区高山一組本教寺住職。今回の災害発生直後、全国の仏教や宗派ボランティアの動きを紹介する「真宗大谷派災害V活動のブログ」を立ち上げた。被災地でのボランティア活動や教区内での救援物資の呼びかけにも尽力している。

## ボランティア委員会より

# 『お米』が持つ願い

平野真

「被災者支援のついでに」や「御遠慮法要」等を通じて全国各地からたくさんのお米を本山にお寄せいただきました。皆さまからいただいた願いのこもったお米は今、「災害救援米」として、被災地に運び、被災された方々の手元に届けられています。

「全国のご寺院・ご門徒が持ち寄ったお米を救援物資に」。二十トンのお米が本山に届くきっかけとなったのは、ボランティア委員会からの提案がきっかけでした。

今回の災害が起こった時、被災された方への救援物資として、宗派が提供を呼びかけるには何か一番ふさわしいのどうと考えました。

日本人の基本はお米です。毎日食す大切な主食です。どの家庭にもある一番身近な食べ物で、簡単に腐るものではない。五キロ十キロと小分けもしやすい。そして、昔から日本人は、お米にお金とは違った価値観を感じています。

幸運なことに、集まったお米を小分けして保管してくれる専門業者が見つかりました。全国から集まったお米を一つにした混ぜ米には違いありません。味は市販のお米より劣るかもしれませんが、全国のご門徒の気持ちが込められています。その気持ちが込められたお米は、ご飯として食べられるのももちろん、お内仏の「お仏飯」にもなるのです。

化しやすいものはむずかしい。集めるのであれば規格がそろったものが望ましい。集約も小分けもしやすいからだ。それでいて送る側が無理をせずに寄付してくれる身近なものが望ましい。そして、被災された方々の日々の生活に常に必要なものが望ましい。

ボランティア委員会が、全国のご門徒・寺院に対して「お米」の提供を呼びかけることを災害救援本部に提案したのは、「被災者支援のついでに」が始まる三月十九日でした。

阪神大震災以降、被災地では必ず「過疎化に拍車がかかった」という言葉が聞かれます。災害は地域の絆を、「コミュニティ」を、そのつながりを破壊するからです。

地域の人たちが家族までもバラバラにしてしまう災害。福島のように故郷に立ち入ることさえできない厳しい現実。災害救援米が、今回の大震災に遭われた被災者の方々に行き渡ってほしいと願っています。そのことによってお寺に人々が集うきっかけとなり、今回の災害で亡くなった方々に思いを馳せ、共に語り、共に涙し、共に親鸞聖人の教えに領いて「願われているのち」「つながりを生きている」ことを確認してもらえればと思います。

被災者の一人一人が、大好きな故郷、大好きな街、大好きな家、大好きな家族が、もう一度復興することを願っています。

被災者の一人一人が、大好きな故郷、大好きな街、大好きな家、大好きな家族が、もう一度復興することを願っています。



## 災害救援米

お届けいただいたお米は、利便性・保存・輸送の観点から、無洗米に加工のうえ5キロ毎に小分けし、被災された方が住む仮設住宅を中心にお届けしています

## 聞こえる? 私は元気です

2011年4月12日、「聞こえる? 私は元気です」と題された1枚の写真が全国紙に掲載され、大きな反響を起こした。

海に向かってトランペットを吹く少女は佐々木瑠璃さん(17歳)。津波で行方不明となった仙台教区気仙本願寺住職、佐々木廣道さんの孫にあたる。陸前高田市を襲った津波で坊主である祖母、母、おば、いとこを亡くした。「私は元気だから、心配しないで」。

祖母が買ってくれたトランペットを抱きしめた。



牙返る震禍の少女奏すペット  
被災地を癒す日永であれかしと

安原葉(宗務総長)

## 被災地の人にもいつか聞いてほしい

### 「復興応援歌」収益は救援金に

参議会議員の村谷守さんが、このたびCD「東北・関東大震災復興応援歌 取り戻そう笑顔と故郷を」を制作した。震災後、「被災地のために何かできないか」と寺で話題になったのがきっかけ。「私は樺太出身で、戦後全てを失って北海道へ引き上げた。だから、被災された人の気持ちがどれほどのものか、少しはわかるんです」。

1枚1,000円で販売し、収益を救援金として後日本山に届けるといふ。宗派ホームページにて試聴できる予定。

問い合わせ先/室内パークゴルフ倶楽部村 ☎0166-47-8039

◎次号に歌詞と譜面を掲載予定です。

## 災害救援本部からの「お知らせ」と「ご協力をお願い」

### 被災者の受け入れを行っています

このたび、東北地方太平洋沖地震により被災された方からの一時避難の相談を受け付けるため、災害救援本部内に別院・寺院教会及び諸施設への被災者一時受け入れ宗派窓口を開設いたしております。なお、被災された方の受け入れ状況により、一時受け入れを停止している場合がございますので、お問い合わせ時にご確認ください。

### お問い合わせ先 災害救援本部

〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る 真宗大谷派宗務所(東本願寺)内 TEL.075-371-9184 FAX.075-371-9196

### 救援金のご協力をお願い

これまで、皆さま方から、多くの救援金をご協力いただき、誠にありがとうございました。引き続き皆さま方のあたたかいご支援を重ねてお願い申し上げます。

#### 救援金口座

〈郵便振替口座番号〉  
01030-4-2244

(加入者名)

真宗大谷派宗務所財務部(救援金)

振替用紙の通信欄に「東北地方太平洋沖地震災害救援金」と明記くださるようお願いいたします

## 各教区から災害救援本部に届けられた救援金 (6月30日現在)

●北海道教区	29,854,031円	●名古屋教区	41,000,000円
●山形教区	4,500,000円	●三重教区	25,230,173円
●三条教区	10,000,000円	●長浜教区	12,400,000円
●富山教区	7,699,592円	●京都教区	1,000,000円
●高岡教区	5,657,163円	●大阪教区	58,000,000円
●能登教区	10,000,000円	●山陽教区	15,243,318円
●小松教区	9,235,413円	●四国教区	7,000,000円
●大聖寺教区	4,519,303円	●日豊教区	8,974,790円
●福井教区	10,000,000円	●久留米教区	11,105,984円
●高山教区	6,198,762円	●長崎教区	6,838,884円
●大垣教区	23,319,721円	●熊本教区	7,180,000円
●岐阜教区	9,000,000円	●鹿児島教区	1,000,000円
●岡崎教区	27,807,611円		
総計		352,764,745円	

上記に加え、寺院、個人、団体他から救援金をお届けいただいております。厚く御礼申し上げますとともに、引き続きご協力をお願い申し上げます。

救援金総額  
**508,887,019円**  
内、370,000,000円を給付済